



碧南ロータリークラブ週報

第2169回例会 平成15年3月26日(水) 曜.最高18℃.最低5℃

- 会長 長田 昌昇 ● 幹事 平岩統一郎 ● SAA 亀山 裕一
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 碧南市源氏神明町90番地
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 加藤知彦・竹下 豊・竹内光博・新美惣英



● 齊唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

卓話講師

オイスカ 西尾支局長 荒川 和郎氏

会長挨拶

アラブの国に20数年勤務した友人のイラク戦争の話によると、もともとアラブの國の人達には自分の国と言う意識が乏しく部族や宗教での結び付きが非常に強いようです。

問題のイラクは、アラブの国々の中でもエジプトに次いで王様を追放して石油資源を国有化し民主化した国だそうです。自由化、民主化という点から見ればサウジアラビヤもクウェートもカタールもヨルダンも王様が国を支配している独裁国家です。特にサウジアラビアなどは国内の石一つまで建前は王様の持ち物だそうです。女性が一人で外出することは勿論の事、車の運転も出来ません。映画館やディスコやバーは無く、酒も禁止されているようです。宗教の自由もありません。しかしイラクは、比較的自由で時々テレビに出てくるアジズ副首相はクリスチャンだそうです。湾岸戦争前は、今爆撃されているバスラにもバクダットにもナイトクラブがあり、東ヨーロッパの国々からお嬢様たちがホステスとして出稼ぎに来ていたそうです。週末になるとクウェートやサウジから酒と女性の居るイラクに男達が集まつたそうで彼も行ったようです。

この戦争で中東は更に政情不安定になり「これだったらまだフセインの方が良かった」と言う事態になったら大変です。アメリカの報道官は、「米軍をイラク国民は笑顔で迎えてくれた」と言っておりましたが、市民にまぎれたイラク軍に撃たれ死者がでました。アラブの格言で「ライオンが歯を見せて微笑みと誤解するな」を忘れているようです。「噛み付いていけない相手には手にキスをしてその手が折れるとアラーに祈れ」という格言もあるそうです。また「アラーと羊と俺」と言うのがあり、要するにアラーの神と羊と自分しか信用しないと云う人達の集まった国ですから国のリーダーは、どうしても力で国民を押さえつけるような力と能力のある人間となるようです。今回の戦争でサダメ政権が失脚しアメリカが言う民主化をスタートさせようとしても油



<ゲスト>荒川 和郎氏



退会挨拶 牟禮 研吾君

と水の中にメリケン粉を混ぜるようなもので、大変な事になるのではないかと言っていました。

イラク国内にはクルド人が住み、また国民の60%はモスレムのシーアー派です。クルド人は独立運動を繰り返しサダメに迫害され、又シーアー派の人達もスンニー派であるサダメ、フセインから迫害されています。アメリカの言う民主化で仮にクルド人が政権を握ればトルコやイラクに住んでいるクルド人と組んで独立に繋がるようですが。またシーアー派の人達が政権を握れば即時イランと結び付くと言っていました。クウェートもサウジもバーレンもカタールも王様たちは総てスンニー派でシーアー派の人達は役人、警察、軍人にもなれないのが現状のようです。

アメリカはあちこちの国からキスされておりますが、その手が折れるとアラーに祈られているかも知れません。

とにかく一日も早く最低の犠牲者でこの戦争が終結してもらいたいものです。私もアラーの神に祈ります。

幹 事 報 告

近隣クラブ例会変更等はお手許資料をご参考下さい。(詳細は各クラブにお問合せ下さい)
メールボックスに地区大会記録誌を入れておきましたのでお受け取り下さい。

委 員 会 報 告

〈出席奨励委員会〉

出席対象者 51／63名	出席率 80.95%
欠席者15名(病欠者0名)	前々回修正出席率 95.24%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

中山 寛三君 21日に杉浦晴彦君のゴルフコンペには皆様のご協力有難うございました。

長田 徳雄君 中国蘇州自進の開業式をすませ操業を開始することが出来ました。

榎原 義嗣君 去る21日杉浦晴彦さんのコンペでハンディに恵まれ優勝しました。

加藤丈太郎君 杉浦晴彦先生のシングル昇進記念コンペで金沢プロはじめパートナーに恵まれ、準優勝ベストグロス賞沢山の賞品をいただきました。ありがとうございます。

中根 佑治君 長男がながい学生生活を終え、ホッとしておりますが、まだ北の国で頑張るよう

です。

杉浦 晴彦君 先日のシングルゴルフコンペ、休日にもかかわらず、大勢の皆様に出席をいただき、誠にありがとうございました。天気も良く暖かく最高でした。

黒田 昌司君 中部新報に拙文が載りました。

三嶋 正君 ホームクラブ例会欠席が続きました。

小笠原良治君 多くの方々のご支援により今回キリンラーメンの限定復活をしました。現代風にアレンジして、とことんこだわって商品にて企画してみました。機会があれば是非ご試食ください。(スーパー小売は致しませんのでなかなか入手が難しいと思います。)

石橋 嘉彦君 3月23日に消防団入退式が無事終了しました。平成11年4月より4年間消防団正副団長として任務を終える事が出来ました。有難うございました。

犬塚 統敦君 3月号日経ベンチャーに取り上げて頂きました。

安城市の本龍寺で3月21日のお彼岸に法話をさせて頂きました。若い方も多くびっくりしました。

牟禮 研吾君 お世話になりました。

角谷 信二君 碧南市消防団、予備隊入退式にて市長より感謝状をいただきました。

早退 8件 合計67,000円

卓 話

「バングラディシュ人民共和国の現状について」

オイスカ 西尾支局長

荒川 和郎氏

バングラディシュは国土面積約28万平方キロ、日本の国土面積の約3分の2位、人口1億3千万人（内首都ダッカは1千万人）、イスラム教徒85%、ヒンズー教徒13%他、通貨タカ（1タカ=2.1円）、国家予算約8千億円（岐阜県予算位）、国民1人当たりGNP4.2万円、月当たり平均給与4千～6千タカ、農業75%、工業10%、商業10%、漁業他5%、教育普及率約50～55%、電気普及率約20%、失業率約50%、1ヶ月生活費（7人）5千タカ、借入金利12%、預金金利8%、ガソリン1リットル30タカ（60円）、カローラ中古（4～5年落）150万円関税率60～65%新車200%、三種の神器とダッカ普及率テレビ30%（地方2%）冷蔵庫25%、洗濯機5%、日本からのODAは200～300億円主にインフラ（道路・橋・発電他）に使われ国別では日本が一番です。名古屋から6千キロ、シンガポール、バンコク経由で15～16時間も掛かります。

オイスカに入会して30年、フィリピン、インド、タイにも行きましたがとりわけバングラディッシュとの関わりは基点はオイスカでございますが、13年前西尾商工会議所が首都ダッカと姉妹締結を結ぶこととなり、調印式にも出席させて頂きました。また8年前には現地から3階建中学校建設の要望があり海外援助の一環として西尾ライオンズクラブが全面的協力に取り組んだこと等が5年毎、5回訪問する起因となったわけであります。

30人の初訪問団の歓迎はテレビ、新聞の取材など国上げてのものでした。政府の高官に手渡した援助金100万円が目的のオイスカ研修センターに届いたのは僅か1割の10万円で、9割の90万円が行方不明となった事が後に判明して、苦い体験から以来は毎回センターに直接渡すようにしています。

ダッカの市街地は人力三輪車で溢れ自転車は殆ど見ることが出来ません。金を払って三輪車に乗ることが彼等のよろこび、また誇りであるかのようで生活水準から思うと不思議な光景です。LPGは40度にもなる真夏の暑さにも拘らず点けっぱなしで使用後に切る習慣はなく合理性を考える我々日本人には理解が出来ないところであります。

ホテルを出ると乞食が「お恵みを」とゾロゾロ何百人と付いて来ます。「喜捨」と言う言葉を使いますが、富者が貧者に与えるのは当たり前で貧しき者が「お恵み」を受けるのはアラーの神の教えでもあると言うのです。ある時私は植林の帰路、泥だらけのシャツ、作業ズボンに無一文で彼等の群れに加わりました。直ぐ日本人と判り当然の如く金をせびられましたが、ポケットを全て逆さまにして本当に文無しとわかると「俺達の方が益し」というわけで逆に私が5円の「お恵み」を頂きました。貧しくとも心は大変豊なのです。

イスラムの女性のベール姿が街中で見かけられる事は殆ど無く、家の中で縫製仕事をしているようです。かつての絨毯を編む手仕事が近代化の波に押され、今は韓国や台湾資本により3千～8千人、或いは1万～1.5万人規模の縫製工場が出来、多くの女性が働くようになりました。見渡す限りミシンの並ぶ工場内は壯觀です。綿布を中国から仕入れ縫製加工し、アメリカ、ヨーロッパ等に輸出するという、シャツ、ネクタイを付けて米国で5ドルですからここでは200円以下で出来ることになるのです。本当に低賃金の脅威を感じてしまいます。

ある時、農機具メーカーの協力を得て中古耕運機、草刈機等100台を3日間の研修後、船便で送りました。後日行ってみると、半数の約50台が倉庫に眠っているので聞いてみたところ3日程で燃料切れ、油が高く手が出ず放置されたままになっていたのです。メンテの部品、ガソリン付きでは永続きしないのでつまりは鎌、鍬、斧の方が適合性ありと思いました。

しかし盗品となつた農機具が一部活躍しているようです。

頻繁な停電は日常茶飯事で、これは庶民の知恵なのか送電線に針金を使って途中で電気を盗むのです。その泥棒の為の部品が売られるなど、日本ではおよそ想像も出来無い事です。

また予防注射、産児制限など政府の施策も国民の50%が文盲のため徹底しない、字が読めなく口頭伝達に頼らざるを得ない悩みも抱えているようです。

副大統領は現地で150万円位と思われる5年落1500CCのカローラ、大統領は数年落のベンツに乗っていますが、市街地を走る一般車はペンキ塗りの方が鉄板より厚そうな30～40年前の車です。日本に帰国すると、まだ走る事の出来そうな勿体無いような綺麗な車が解体車として、山積みされているのがとても気になります。

5回の訪問を重ねますと友人が出来て参りました。その中の一人であるブイアンは59歳、ダッカ大学卒業後、向学心に燃え千葉大から東大そして大学院に進み英語、ベンガル語は勿論日本語も堪能で私より上手いのです。鉄鋼船を5隻持ち、エビを採り、日本の水産工場に輸出しています。ダッカのオイスカ、商工会議所、ライオンズクラブ等の橋渡しをしてくれております。奥さんは千葉大学留学中に知り合った日本人、郷里静岡県韮山の両親は猛反対、いわば略奪結婚で子供が出来てから認めてもらったとの事です。才媛活達な彼女はNHKの特派員として毎週ラジオ報道の活躍をされ、また日本語学校も創設し、大使館、政府要人等、人的交流が大変広く、今やダッカの女王とも言われております。

3回目訪問の大使館でのこと、榎原一等書記官の出身地を尋ねたところ西尾市福地ということで、私の知る同級生の母親らしき名前を申し上げたところ、「それは母です」と。まさしく奇遇で本当に驚きました。

世界最貧国と言われ物質的に恵まれない国ですが、人懐こい暖かさ、心の豊かさに恵まれたバングラディッシュに、私は今後も訪問を続けたいと思っています。

(資料参照)

次回例会案内／4月9日（水）「考えさせられる話あれこれ」
碧南市教育長 小笠原幸男氏